



# くらがね通信

No.80 (新緑号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

2020年5月15日発行

<http://iidalaw.net/norikura.html>

## 重要なお知らせ

全国的に行動自粛要請が出され、当会も計画している各種事業の日程が決められません。会員の皆様には日程が決まった時点で「はがき」でお知らせします。

## 第20回総会を開催しました

2月29日(土)に第20回定時総会を開催しました。2019年の事業報告及び会計決算報告、2020年の事業計画・予算案などを審議していただきすべて承認されました。総会の資料等については、以下に掲載してありますのでご覧ください。

なお総会は感染予防の観点から、全員マスクを着用し換気のため窓を開放にし密接を避け極力短時間で行いました。また、総会に先立ち環境講演会を行う予定でしたが、延期(期日未定)としました。

\*\*\*\*\*

### 資料 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 第20回総会

2020年2月29日(土) 高山市民文化会館

#### 1. 2019年会務・事業報告

##### ※会務報告

- 1) 会員状況 2020年1月末会員数 個人・家族会員：79 団体：4 計83
- 2) 会議関係 第19回総会：2019年3月2日 運営委員会：概ね毎月1回開催

##### ※事業報告

- 1) 環境講演会 3月2日  
「立山信仰とライチョウ」  
～ライチョウと人とのかかわりの歴史を学ぶ～  
講師：松田 勉氏 (富山雷鳥研究会事務局長)
- 2) 自然観察会  
6月9日 乗鞍岳自然観察会  
7月28日 水生昆虫調査 (川上川・宮川)

10月6日 里山こみち石仏探訪（江名子町周辺）

3) アサギマダラマーキング会

9月1日 御嶽山麓チャオスキー場周辺

4) くらがね通信（季刊）の発行 1月、4月、7月、10月（No.71～74）

5) 自然談話室

5月22日 中林利数さん（元NHK高山支局長）「残っていた捕鯨船」

6月11日 伊藤栄一さん（森のなりわい研究所）「林業は自然を破壊する？」

9月27日 小野木三郎さん「御嶽山の自然を考える（Ⅰ）」

10月18日 小野木三郎さん「御嶽山の自然を考える（Ⅱ）」

## 2. 2019年 収支決算報告

### <収入の部>

		金額	備考
平成29年繰り越し		181,012	
会費	個人	126,000	@ 2,000 × 63
	家族	36,000	@ 3,000 × 12
	団体	20,000	@ 5,000 × 4
雑収入		32,000	
合計		395,012	

### <支出の部>

	金額	備考
会議費	1,860	文化会館使用料等
通信費	43,286	ハガキ・切手等
事務費	11,188	封筒・ラベル・コピー等
印刷費	60,700	くらがね通信（年4回）発行等
事業費	117,287	講師謝礼・交通費・お茶代・保険等
合計	234,321	

395,012円（収入）－ 234,321円（支出）＝ 160,691円（次年に繰り越し）

### <監査報告>

2020年 / 月 2 / 日

向田直一	印
米澤智子	印

## 3. 2020年事業計画

- 1) 第19回総会 2020年2月29日
- 2) 環境講演会 2020年2月29日
- 3) 自然観察会 乗鞍岳、石仏探訪、水生昆虫調査等
- 4) アサギマダラマーキング会 9月初旬 講師：鈴木俊文さん

- 5) 公開講座「自然談話室」、学習会、出前講座など 随時
- 6) くらがね通信の発行 3～4回/年発行
- 7) 要望書・提言書などの提出

#### 4. 2020年予算(案)

##### <収入の部>

	金額
繰越金	160,691
会費	180,000
雑入	
合計	340,691

##### <支出の部>

	金額	備考
会議費	5,000	
通信費	45,000	
事務費	13,000	
印刷費	61,000	
事業費	110,000	
予備費	106,691	
合計	340,691	

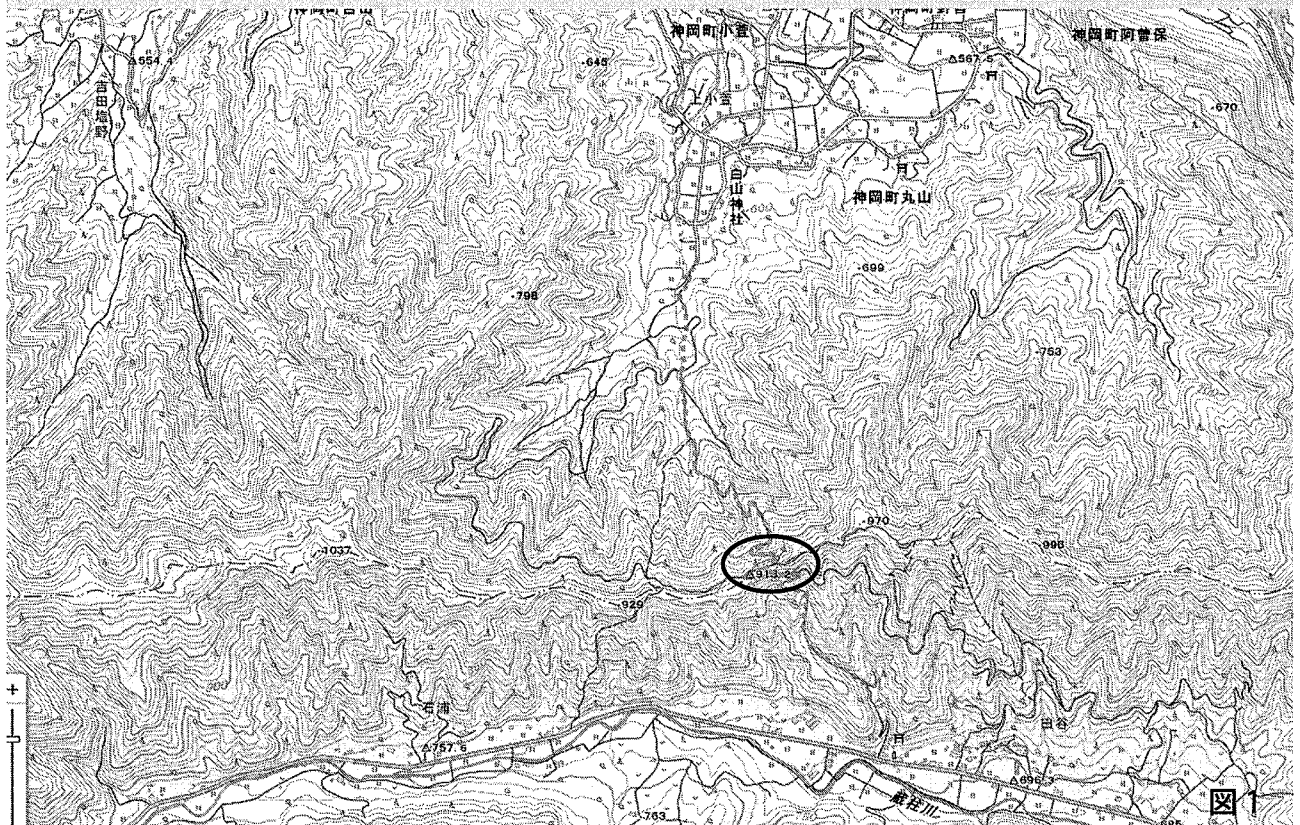
#### 5. 役員選任

全役員の留任が承認されました

### 飛驒の峠【その11】

木下喜代男

#### 小萱峠—村境の小さな峠



今よりずいぶん貧しかったけれどやさしかった人々が、雨の日も雪の日もひたすら歩いて越えた峠道。たいていの峠には、人々を温かく見守り続けてきた地蔵様が今も残っておられた。

旧町村境の標高約 1,000m の尾根を挟んで、飛驒市神岡町小萱(こかや)集落と高山市上宝

町蔵柱田谷集落があり、昔この両集落を結ぶ小さな峠道があった。(図1)

神岡の山スキークラブのメンバーNさんたちが、埋もれていたこの峠道をハイキングコースにしたいと手入れをはじめておられ、お誘いいただいたので歩いてきた。



重要文化財の小萱薬師堂から歩き始める。集落を過ぎて山に入ると馬車が通ったという広いしっかりした道が残っていて、すでにヤブを伐開してあるので、峠まで古道を味わって難なく歩くことができた (写真1・2)。

峠には近年敷設された林道が横断しており、新たに「峰越峠」の名がつけられていたが、昔の峠の雰囲気はなかった。そこには新しいお堂が建てられ、両側の峠道にあった何体かの地藏様を集めて安置してあった (写真3)。

蔵柱側をのぞくとしっかりした道が残っていたが、ヤブが密生していた。あと旧町村境の尾根通を東へ歩き、「天ヶ岩屋」へ行く。大きい岩屋の下には小さい社があり、「奥山平半僧坊大権現」が祀ってある。(写真4)

なんでも静岡県引佐郡奥山にある奥山平半僧坊総本殿大本山方広寺の分社という。開山の年が養蚕の上作だったので、養蚕の守護神、山の神としても信仰されるようになった。昔は蚕を飼っている人が多かったので、丹生川村からもお参りにきたという。

尾根をさらに東へ進むと、飛騨山脈が一望できる「天ヶ岩」に到着。岩山の頂にも小さい

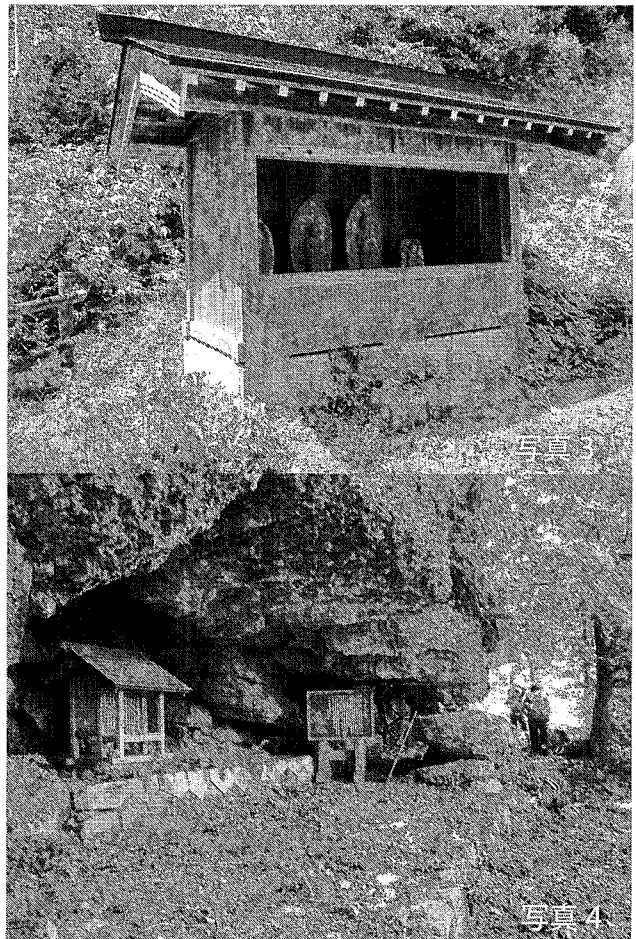
社があった。ここで眺めを楽しみながら昼食をとったあと往路を少し戻り、標高970mから北へ派生している長い尾根を丸山集落まで下った。この尾根にも不明瞭ながら道が残っており、丸山の人が上宝村へ行くとき通ったとのこと (写真5)。

丸山集落に近い古道には、「山の神」や「地藏様」 (写真6) が祀ってあった。同行したHさん(77歳)は、子供の頃遠足でこの峠を越えて上宝村へ行ったと話してくれた。この峠、昔は夜〇い峠とも呼ばれていたような。

旧上宝村の蔵柱側が気になり、その翌週に行ってみた。田谷集落の神明神社のそばから入る。砂防堰堤の上まで草に埋もれた林道が入っていたが、砂防堰堤の上から谷沿いにしっかりした峠道が残っていた。

下部は通る人もなくヤブに埋もれていたが、上部へ行くにしたがって広いはっきりした道となり、ヤブもたいしたことはなかった (写真7)。

途中にあった地藏堂は、1つ目は朽ち、2つ目は空だったが、峠の新しいお堂へ上げたものと思われた。先日立った峠の手前だけ小灌木が茂り、漕ぐのに一苦労した。





往路を戻り、神社の側の家でこの峠を歩いた人はいないか尋ねたところ、D家のお婆さんを紹介してもらえた。D家へ行くと、ご当主は以前山の関係で会ったことがある方で、その方のご母堂(90歳)だった。まだしっかりした方で、この峠を越えて船津の街へ行った話をいろいろ聞くことができた。特に暮れの25日の買い出しは恒例になっており、ご母堂がお若い頃は姑さんが街で売る炭を背負い、自分は子(今のご当主)を背負って峠を越えて船津へ行き、正月用品を買ってきたとのこと。船津まで2時間かかったそうだ。その後幼かったご当主は、母が

町で買ってくる饅頭のテンプラが楽しみで神社のそばで帰りを待っていたこと、遠足で神岡へ行ったことなども話してくれた。蔵柱のこのあたりは船津吉田常蓮寺の檀家なので、住職は峠を越えてやってきたという。

なお石浦集落からも小萱へ抜ける峠道があったそうだ。

(現地調査日:平成30年6月16日・6月22日)

初出「飛騨学の会」紀要『斐太紀』第21号を改稿

\*\*\*\*\*

### 小萱峠を歩いてきました

松崎茂

古川の友人に誘われ4月29日に小萱峠を歩いてきました。木下さんから原稿をいただいた1週間後のことです。友人からの電話で「神岡の小萱の集落からイワウチワのいっぱい咲いてる道を歩かないか？」と言われ、原稿を読んでいた僕はピンときて即誘いに応じました。

往路は下の写真にある「右上道」、復路は「左下道」を下ってきました。この「左下道」が木下さんが書いておられる峠の古道です。この標柱はつい最近立てられたばかりの新品のようです。

登りは倒木が多く道を塞いでいてチェーンソーでカットし通れるようにしてありましたが、なにせ数が多く作業された方々の苦勞が偲ばれました。途中からはイワウチワの群落が次々とあらわれ目を楽しませてくれました。まだ芽吹きには間が有り林内は明るく日が差していました。イワナシもピンクの花を咲かせ始めていました。



写真5

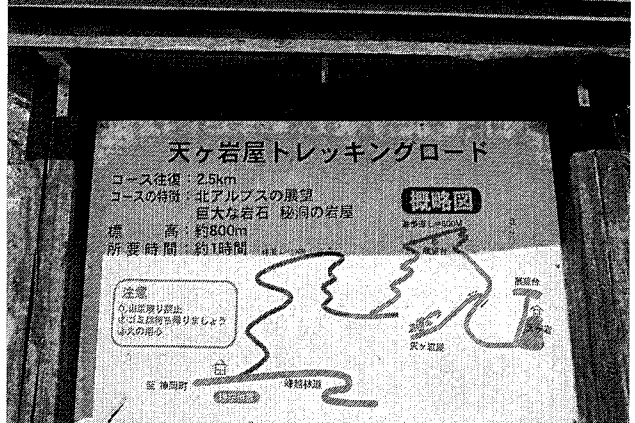
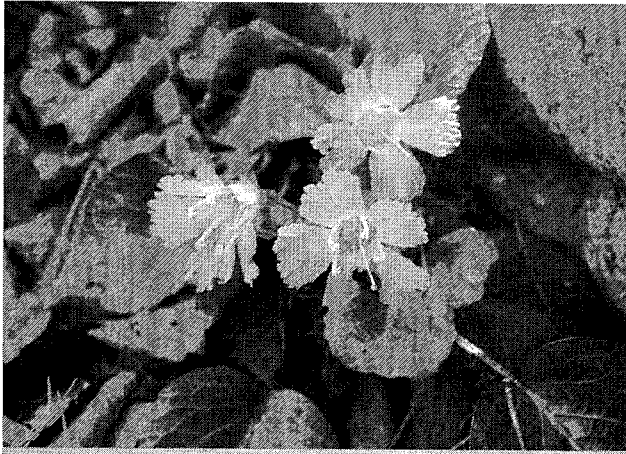


写真6



写真7





峠に到着しお堂の前で昼食をすませ、東に伸びる尾根道を更に登って行きました。970mのピークから下って少し登り返した所に「天ヶ岩」の展望台があります。そこで友人が持参して来たドローンを飛ばし、飛騨山脈の映像を撮影しました。午後の陽を浴び飛騨山脈は真っ白に光っていました。

「天ヶ岩」から峠に引き返し、いよいよ峠の古道を下って行きました。こちらはまさに「古道」の雰囲気たっぷり漂わせた素敵な道です。こちらの道は落葉樹が多く足元は枯れ葉でフカ

フカです。往時は荷車を引いて歩いたというだけあって、道幅は広くジグザグの道は勾配も緩やかです。気の短い人が居るのか、ところどころショートカットして下って行く踏み跡が見られます。「上道」と「下道」の分岐まで戻って来るとスマレサイシンが咲いていました。

お弁当持ちで簡単に行ってこられ、古道の雰囲気たっぷり味わえ、お勧めです。ぜひ行って見てはいかがでしょうか？

■ 会員を募集しています！ 年会費 = 個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円  
あなたの知人、友人に入会をおすすめください  
・郵便振替 00800-8-129365 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 第 80 号 (号) 2020 年 5 月 15 日 発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒 506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋

TEL : 0577-32-7206 ・ FAX : 0577-32-7207

下記 URL のページからくらがね通信のバックナンバーが閲覧できます。

★ <http://iidalaw.net/norikura.html>

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者: 松崎 茂

E-mail: ponykun0428@hidatakayama.ne.jp TEL : 0577-34-4703

表紙写真提供: 小池 潜

印刷: 山都印刷